

2014年3月期 第2四半期 決算説明会

糖質科学で未来を創る



<http://www.ehiza.jp>



生化学工業株式会社

(証券コード:4548)

'14.3期 第2四半期業績の概要

(百万円)

	'14.3 第2Q	'13.3 第2Q	前同比 (増減率)	期首予想 (5/10)	期首予想比 (増減率)
売上高	15,405	13,239	+2,166 (+16.4%)	15,200	+205 (+1.3%)
営業利益	3,488	1,324	+2,163 (+163.3%)	2,700	+788 (+29.2%)
経常利益	3,783	1,781	+2,002 (+112.4%)	2,950	+833 (+28.3%)
四半期純利益	3,118	1,266	+1,852 (+146.3%)	2,450	+668 (+27.3%)
研究開発費	3,068	3,412	-343 (-10.1%)	3,300	-231 (-7.0%)
研究開発費 対売上比率	19.9%	25.8%	-5.9pt	21.7%	-1.8pt
一株当たり 四半期純利益	54.90円	22.29円	+32.61円	43.13円	+11.77円
期中平均レート (1US\$)	98.86円	79.42円		95.00円	

'14.3期 第2四半期売上高(前年同期比)

売上高: 15,405 (+2,166 / +16.4%)

(百万円)

【医薬品: 13,315(+1,862)】

・国内医薬品(+168)

アルツ: 医療機関納入本数が増加したが、伸び率は縮小
当社売上: 販社の在庫調整により微増

オペガン: 医療機関納入本数は微増、シェアは競合が厳しく減少
当社売上: 前年同期の出荷が低水準だった反動により増加

ムコアップ: 内視鏡手術の手技浸透施策が評価されており、引き続き増加

・海外医薬品(+1,477)

アルツ類: ・米国Supartz: 現地販売は微減、当社売上は円安効果等により増加
・中国: 現地販売が引き続き増加

Gel-One: 販路確立に向けた施策が進捗しており、増加

・医薬品原体(+216) ヒアルロン酸が増加

【LAL: 2,089(+303)】 海外における売上増や、円安効果により増加

* 売上高全体への円安効果(+760)

■ 主にGel-Oneなどの海外医薬品の数量増に加えて円安効果もあり増収

'14.3期 第2四半期利益(前年同期比)

営業利益: 3,488 (+2,163 / +163.3%)

(百万円)

【原価(+636)】

- ・原価率: 35.5% (-1.0pt)
- ・海外医薬品の数量増と円安効果により原価率が改善

【販管費(-634)】

- ・R&D費: 3,068 (-343): 減価償却費など間接経費が減少
- ・Gel-One特許侵害訴訟費用が減少
- * 減価償却方法の変更(定率法⇒定額法)による利益への影響: (約+170)

四半期純利益: 3,118 (+1,852 / +146.3%)

【営業外損益(-160)】

- ・前年同期に受取ロイヤリティーを計上した反動(-428)
- ・保有外貨建資産の為替評価がプラスに転じる(+257)

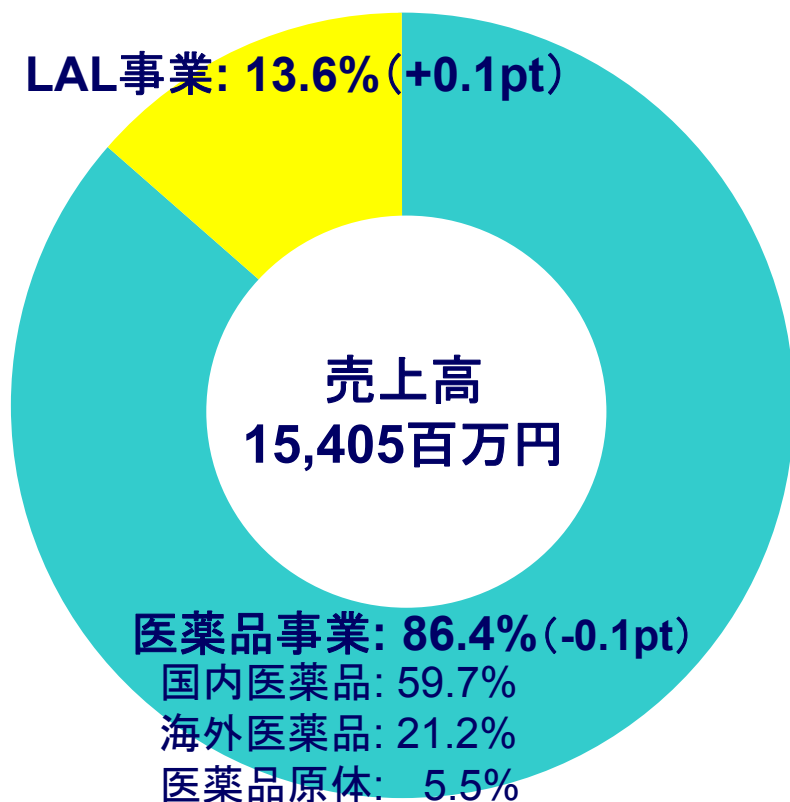
【特別損益(+49)】

- ・投資有価証券売却益 (+560)
- ・久里浜工場集約等に伴う事業構造改善費用 (-510)
- * 高萩工場の産業再生特区指定による優遇税制継続による税率減

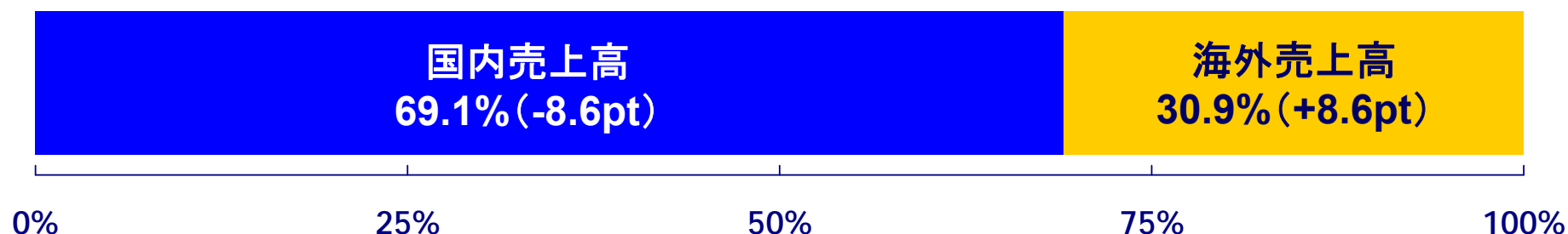
- 売上総利益の増加と販管費の減少により営業利益は大幅増
- 久里浜工場集約等に伴う費用を特別損失として計上したが、投資有価証券売却による特別利益もあり、四半期純利益も増加

'14.3期 第2四半期セグメント別売上高

(百万円)



セグメント	売上高	前同比	増減率
【医薬品事業】	13,315	+1,862	+16.3%
国内医薬品	9,201	+168	+1.9%
海外医薬品	3,261	+1,477	+82.8%
医薬品原体	852	+216	+34.0%
【LAL事業】	2,089	+303	+17.0%
合計	15,405	+2,166	+16.4%
(海外売上高)	4,764	+1,808	+61.2%



'14.3期 第2四半期（期首予想比）

（百万円）

売上高：15,405（+205 / +1.3%）

- 医薬品(+215)：国内医薬品の未達を海外医薬品及び医薬品原体の増加でカバー

営業利益：3,488（+788 / +29.2%）

- 原価(約-150)：販売数量減により減少
- 販管費(約-400)：R&D費(-231；予想 3,300 ⇒ 3,068)
その他販管費も減少

四半期純利益：3,118（+668 / +27.3%）

- 営業外収益増加：円安により保有外貨建資産の為替差益が増加
- 特別損益の発生：投資有価証券売却益(+560)や事業構造改善費用(-510)が発生

■ 売上高は若干上振れ。利益も研究開発費等の販管費の減少や円安による保有外貨建資産の為替評価拡大により上振れ

'14.3期 通期修正予想の概要

(百万円)

	'14.3 修正予想	'14.3 期首予想	期首予想比 (増減率)	'13.3 実績	前期比 (増減率)
売上高	30,200	29,900	+300 (+1.0%)	26,639	+3,560 (+13.4%)
営業利益	4,800	4,550	+250 (+5.5%)	3,126	+1,673 (+53.5%)
経常利益	5,500	5,000	+500 (+10.0%)	4,302	+1,197 (+27.8%)
当期純利益	4,450	4,050	+400 (+9.9%)	3,256	+1,193 (+36.6%)
研究開発費	6,900	7,050	-150 (-2.1%)	6,838	+61 (+0.9%)
研究開発費 対売上比率	22.8%	23.6%	-0.8pt	25.7%	-2.9pt
一株当たり 当期純利益	78.34円	71.29円	+7.05円	57.33円	+21.01円

期中平均レート 97.00円
(1US\$) (第3Q以降前提)

95.00円
(期首前提)

83.11円

'14.3期 通期修正予想(期首予想比)

売上高: 30,200 (+300 / +1.0%)

(百万円)

- 国内医薬品(約-450) : アルツの医療機関納入本数が軟調に推移
 - 海外医薬品(約+700) : 米国スパルツおよびGel-One出荷増や円安効果
 - 医薬品原体(約+50) : コンドロイチン硫酸が減少する一方で、ヒアルロン酸が増加
- * 売上高全体への円安効果(約+300)

営業利益: 4,800 (+250 / +5.5%)

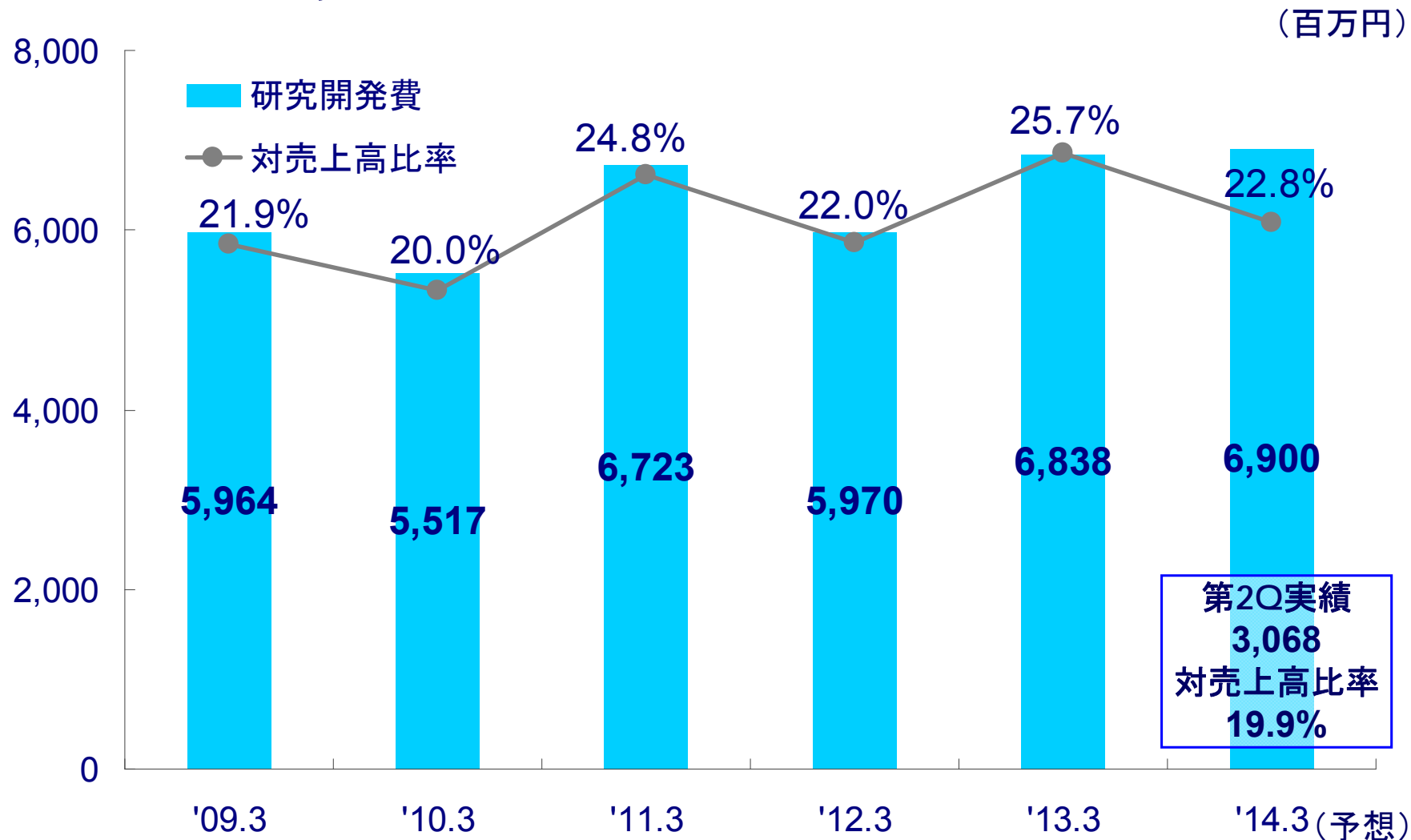
- 原価(約+200) : Gel-One新製剤設備の償却開始が計画より早まる
- 販管費(約-150) : R&D費が減少(7,050→6,900)
その他販管費はほぼ期首予想通り

当期純利益: 4,450 (+400 / +9.9%)

- 営業外収益増加: 円安による保有外貨建資産の為替差益増加等
- 特別損益の発生: 投資有価証券売却益や事業構造改善費用が発生

■ 国内医薬品は減少するが、米国スパルツおよびGel-One出荷増に加え円安効果により売上は微増。研究開発費の減少および営業外収益増加等により、利益も上方修正

研究開発費の推移

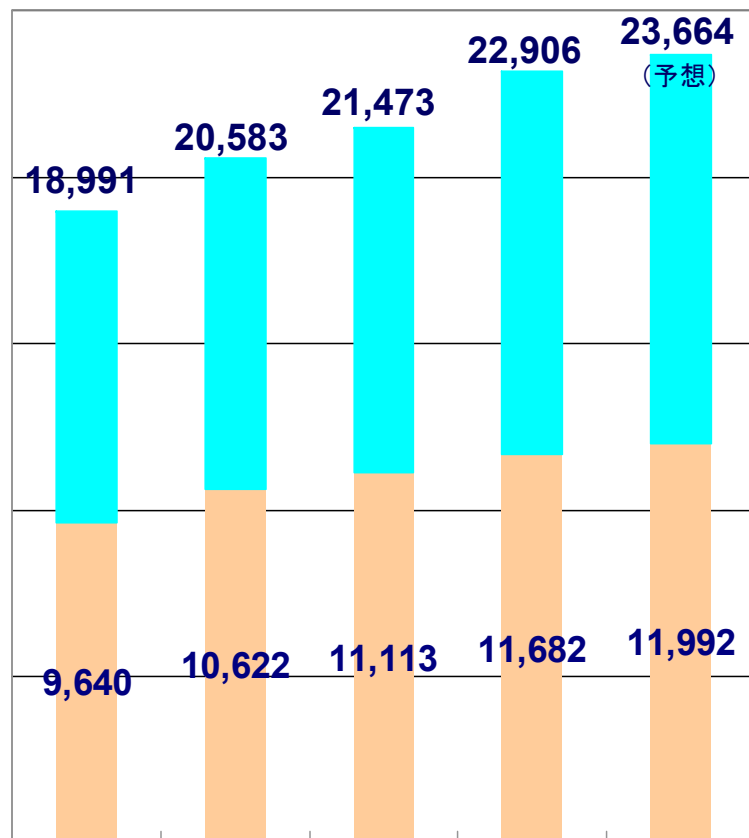


■ '14.3期は、日・米SI-6603などの開発テーマの進捗により
前期とほぼ同額を見込む

国内アルツの販売状況 (医療機関納入本数ベース/前(同)期比)

アルツ医療機関納入本数の推移

(千本)



'10.3 '11.3 '12.3 '13.3 '14.3

■ アルツ医療機関納入本数 通期
■ アルツ医療機関納入本数 第2Q

■ '14.3期 第2Q実績

《マーケット》: +0.5%

《アルツ》: +2.6%

- ・先発品としてのブランド力の向上
- ・プラスチック容器の投入などによるアルツの評価向上

⇒ アルツが市場を牽引

市場シェア: 56.7% (1.2ptアップ)

■ '14.3期 予想

《アルツ》: +3.3%

- ・疾患啓発活動を引続き推進
- ・アルツのブランド力・優位性を活かした営業活動を推進
- ・整形外科以外の診療科へも注力

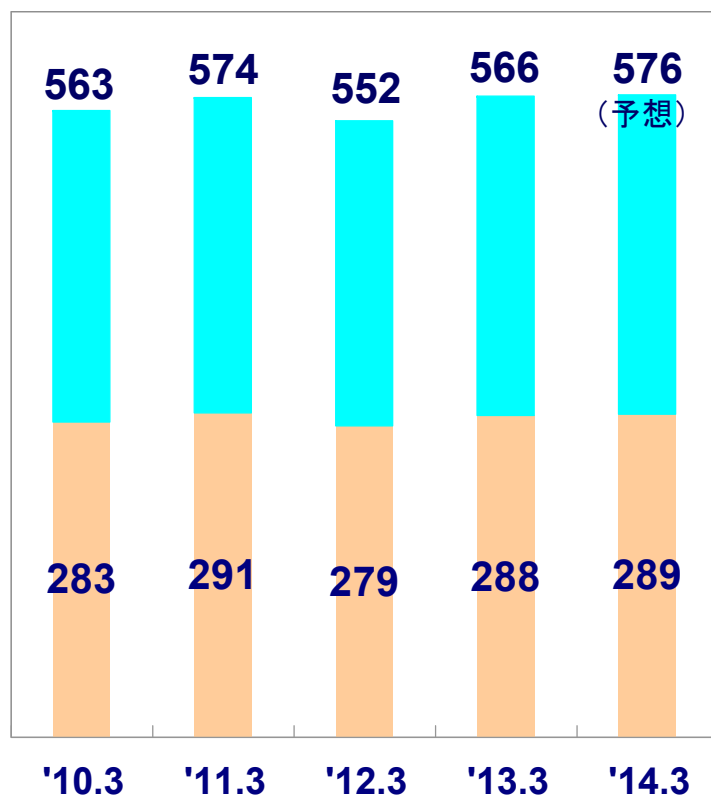
⇒ マーケットの伸びを上回る増加を目指す

アルツ: ヒアルロン酸を主成分とする関節機能改善剤

オペガンの販売状況 (医療機関納入本数ベース/前(同)期比)

医療機関納入本数の推移

(千本)



■ オペガン医療機関納入本数 通期
■ オペガン医療機関納入本数 第2Q

■ '14.3期第2Q実績

《マーケット》 : +3.0%

《オペガン》 : +0.4%

- ・競合の厳しい状況が継続しており、医療機関納入本数は微増にとどまる
- ・市場シェアは減少

■ '14.3期予想

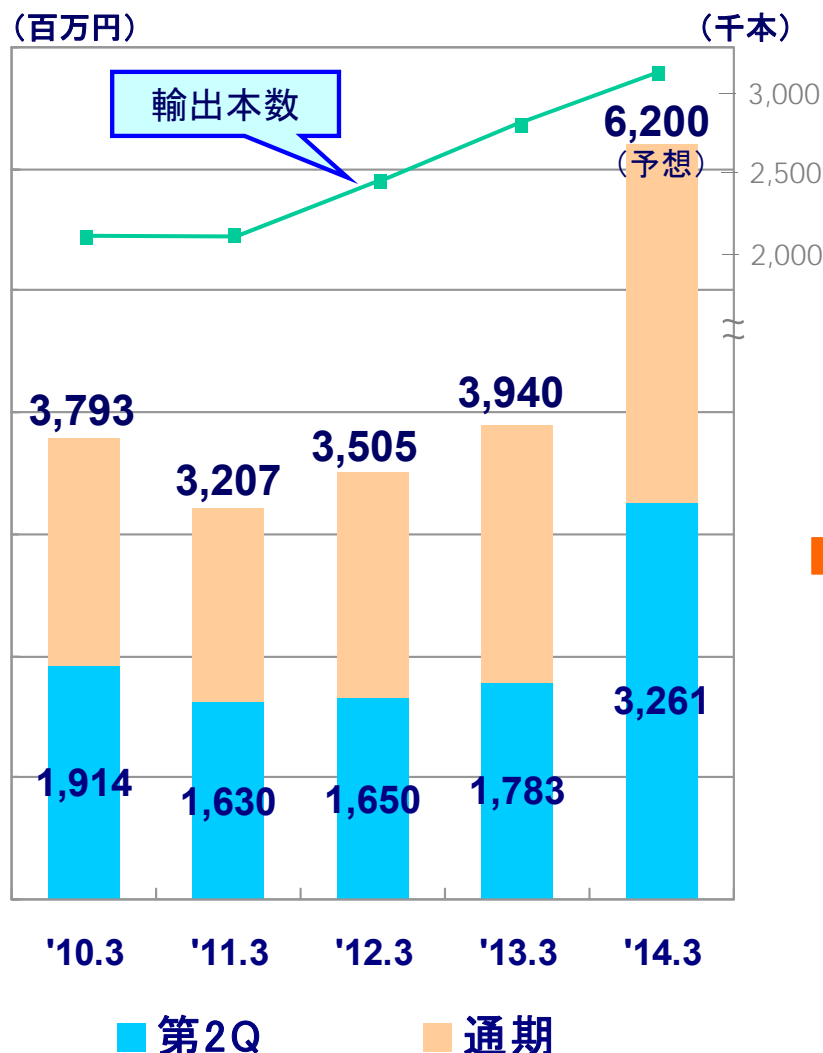
《オペガン》 : +1.7%

- ・販売提携先とともに営業活動強化施策を展開
⇒下期の納入本数増加を目指す

オペガン: ヒアルロン酸を主成分とする白内障手術の補助剤

海外医薬品の販売状況(金額ベース/前(同)期比)

海外医薬品の売上推移



■'14.3期 第2Q実績:3,261百万円(+82.8%)

(円安の影響:+5億円弱)

◀アルツ類(複数回投与)▶+40.9%(当社輸出)

◆米国Supartz:一部保険会社の償還非推奨の影響が一巡し、現地販売は微減にとどまる

◆中国ARTZ:現地販売が引き続き増加

◆当社輸出:円安およびSupartzの現地在庫水準を高めたこともあり増加

◀Gel-One(単回投与)▶

◆現地販売、当社輸出とも大幅増

■'14.3期 予想:6,200百万円(+57.3%)

(円安の影響:+9億円強)

◀アルツ類▶+24.2%(当社輸出)

◆米国Supartz:ターゲットを広げた積極的な販促活動によりシェア奪回を目指す

◆中国ARTZ:高い品質や使用実績が引き続き評価

◆当社輸出:現地販売増に加え円安効果もあり増加

◀Gel-One▶

◆販路拡大施策の効果により、当社輸出が増加

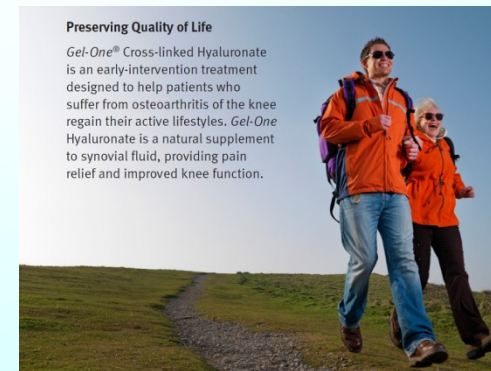
Gel-Oneの販売・生産戦略

■ Gel-One営業施策

- ◆ 大手医薬品卸との契約が進展
- ◆ 保険会社との交渉も進捗
- ◆ 医師のGel-One認知度を高める施策を実施
- ◆ 米国ラベル変更(追加)臨床試験開始
 - ・ 更なる製品価値向上施策として実施
 - ・ 2013年8月より開始



< 関節機能改善剤 Gel-One >



< Gel-Oneパンフレット >

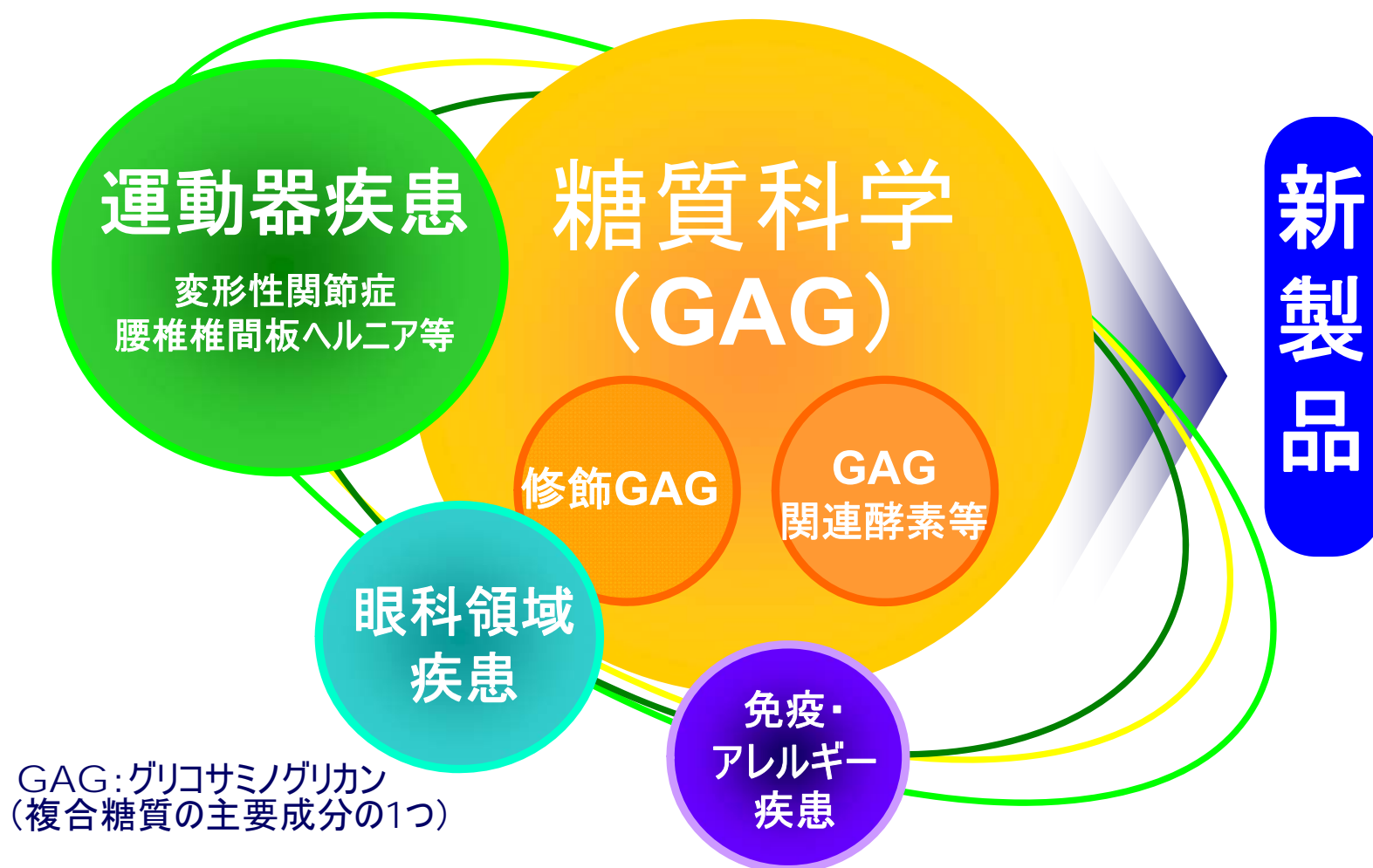
■ Gel-One専用製剤設備

- ◆ 高萩工場第3製剤棟内に新設(投資額:32億円)
- ◆ 中長期的な売上拡大に対応できる生産能力



< Gel-One 新製剤設備 >

研究開発基本方針



- 専門分野である糖質科学に焦点を絞り、医療ニーズが高い新製品の早期かつ継続的な上市を目指す

パイプラインリスト

開発コード・物質名	適応症等	開発地域	P I	P II	P III	申請
SI-6603 コンドリアーゼ	腰椎椎間板ヘルニア	日本				'14.3期中に申請予定
		米国				
SI-657 ヒアルロン酸	腱・靭帯付着部症 (アルツ適応症追加)	日本				
SI-613 NSAID結合ヒアルロン酸	変形性膝関節症	日本				
SI-614 修飾ヒアルロン酸	ドライアイ	米国				
SI-615 アデニンA3レセプターアゴニスト	関節リウマチ	日本				

SI-6603の概要

- ヘルニアを縮小させることで、神経への圧迫を減少し痛みを軽減する
- 2013年8月に、日本の第Ⅲ相試験で良好な結果を取得

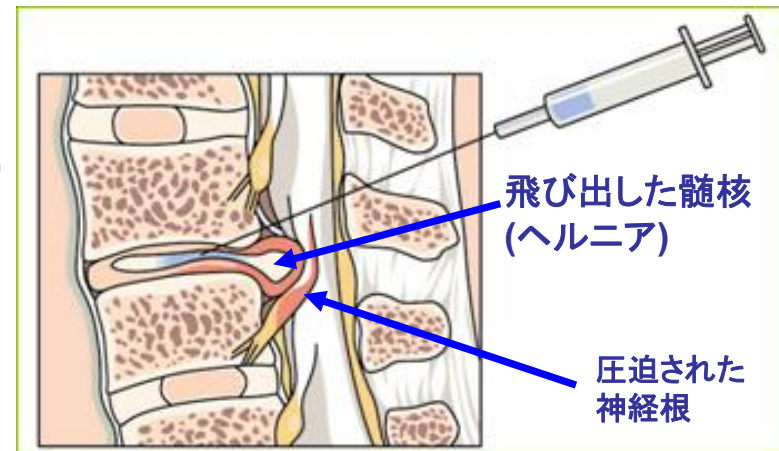
- 物質名：コンドリアーゼ
- 適応症：腰椎椎間板ヘルニア
- 用法：椎間板への注射 (X線透視下で投与)
- 現在のステージ：

日本：PⅢ

- ◆ 良好な結果を得た
今期中：承認申請を見込む

米国：PⅢ

- ◆ 2013年10月：症例登録開始



◆ 特徴：

- ・ 髄核の主要成分GAG(コンドロイチン硫酸等)を特異的に分解することで、ヘルニアによる神経圧迫を減少し、痛みが軽減される
- ・ タンパク質分解能を有しないため他の組織(血管・神経等)への影響が、ほとんどない
- ・ SI-6603は、1回の注射で手術の代替療法となり得る
- ・ 2012年12月に日本における独占販売契約を科研製薬株式会社と締結

SI-657の概要

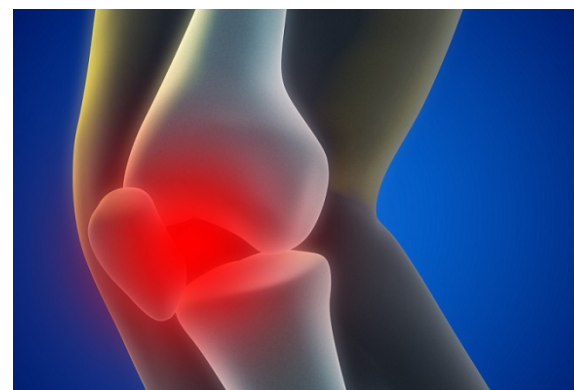
- 腱・靭帯付着部症の諸症状を改善し、疼痛抑制効果を発揮
- 2013年5月開始の第Ⅲ相試験が順調に進展
- 物質名：ヒアルロン酸(アルツの適応症追加)
- 適応症：腱・靭帯付着部症（4疾患を対象）
- 開発形態：科研製薬との共同開発
- 現在のステージ： **日本：PⅢ** 2013年 5月：PⅢ試験開始



・上腕骨外側上顆炎
(テニス肘)



・アキレス腱付着部症
・足底腱膜炎



・膝蓋腱炎
(ジャンパー膝)

4疾患合計の年間受診患者数：約57万人

アルツの更なる製品付加価値向上に取り組むことで、
より多くの患者さんの症状改善に寄与することを目指す

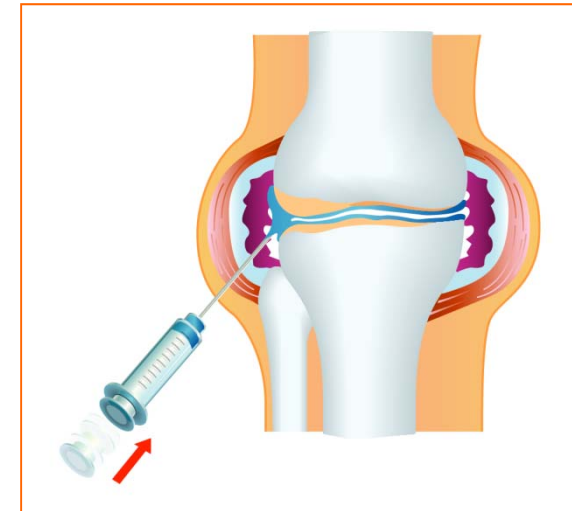
SI-613の概要

- 変形性膝関節症に伴う強い痛みや炎症を速やかかつ持続的に改善
- 日本のみならず米国を含むグローバル展開を目指す

- 物質名：SI-613 (NSAID^{*1}結合ヒアルロン酸)
- 適応症：変形性膝関節症
- 用法：関節腔内への注射
- 現在のステージ：

日本：P II

- ◆ 2013年3月：症例登録開始
- ◆ 2013年8月：症例登録完了



◆ 特徴：

- ・ 変形性膝関節症に見られる強い痛みや炎症を軽減するため、当社独自の薬剤結合技術を用いてヒアルロン酸とNSAIDを結合
- ・ 強い痛みや炎症を長期間改善するためNSAIDを徐放化^{*2}
- ・ NSAIDの経口剤・局所投与と比較し、副作用が極めて少ない

*1 NSAID: 非ステロイド性抗炎症薬(Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drug)

*2徐放化: 薬物の有効成分が徐々に放出されるよう調節し、治療効果を長期間持続させること

SI-614の概要

- 眼表面保護作用と角膜創傷治癒促進作用によりドライアイ諸症状を改善
- 米国での第Ⅱ相試験を終了し、次相臨床試験に向けて検討中

- 物質名：SI-614（修飾ヒアルロン酸）
- 適応症：ドライアイ
- 用法：点眼
- 現在のステージ：

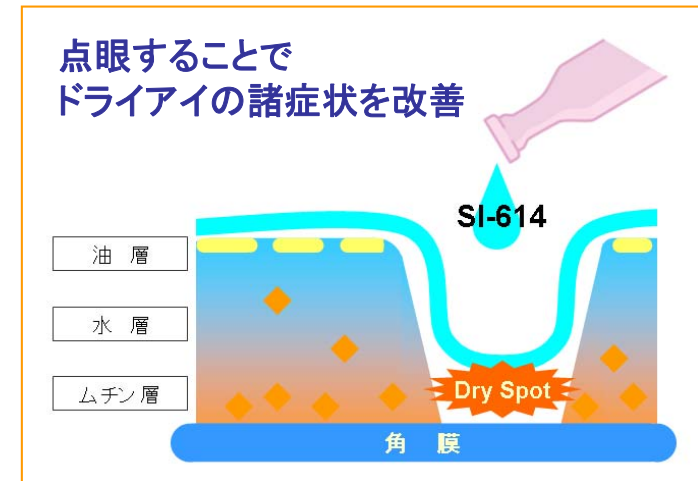
米国：PⅡ

◆ 2012年3月：症例登録開始

◆ 2012年9月：試験終了

⇒臨床的に有用な効果が

確認されたことから、次相臨床試験にむけて検討中



◆ 特徴：

- ・ 当社独自のヒアルロン酸修飾技術を用いて創生した化合物
- ・ ドライアイ患者の眼表面保護作用と角膜創傷治癒促進作用により、ドライアイの諸症状を改善することが期待される
- ・ ドライアイは、多因子疾患であるものの、米国では、抗炎症治療薬の選択肢しかなく、治療オプションの充実を図ることが可能

利益配分に関する基本方針

◆ 剰余金の配当

1株当たり年間26円を基本とし、安定的かつ継続的な配当を目指す

* 株主優待廃止に伴い、基本額を1円引き上げ('13年7月30日発表)

◆ 内部留保

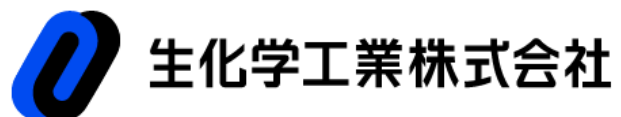
中長期的な視野に基づいた研究開発、設備投資等に充てる

◆ 機動的な資本政策

資本効率の向上を目的として、自己株式の取得等を適宜検討する

	'10.3期	'11.3期	'12.3期	'13.3期	'14.3期 (予想)
一株当たり当期純利益	62.94円	43.16円	57.58円	57.33円	78.34円
一株当たり年間配当金	25.00円	25.00円	25.00円	25.00円	26.00円
配当性向	39.7%	57.9%	43.4%	43.6%	33.2%

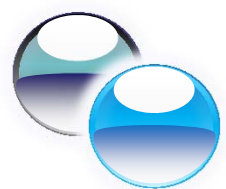
糖質科学で未来を創る



<http://www.ehiza.jp/>

■ 業績予想に関する留意点

当資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますので、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの将来に関する記述に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。



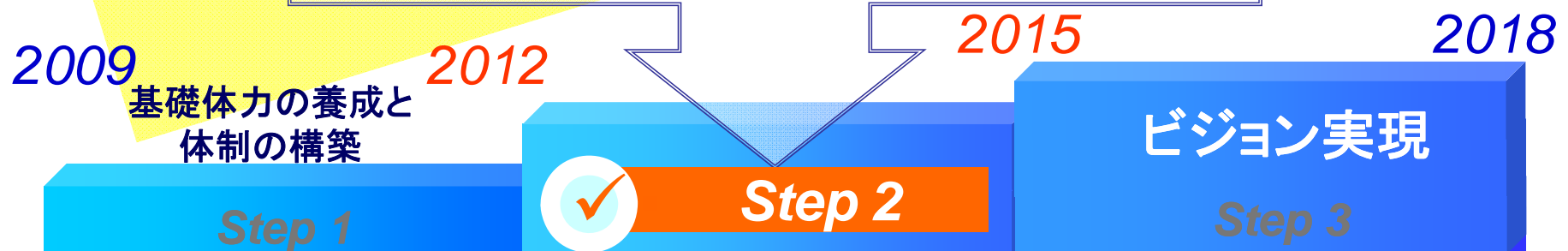
参考資料

生化学工業10年ビジョンと中期経営計画

10年ビジョン “グローバル・カテゴリー・ファーマ”
糖質科学に研究開発の焦点を絞って、国際競争力を確立する

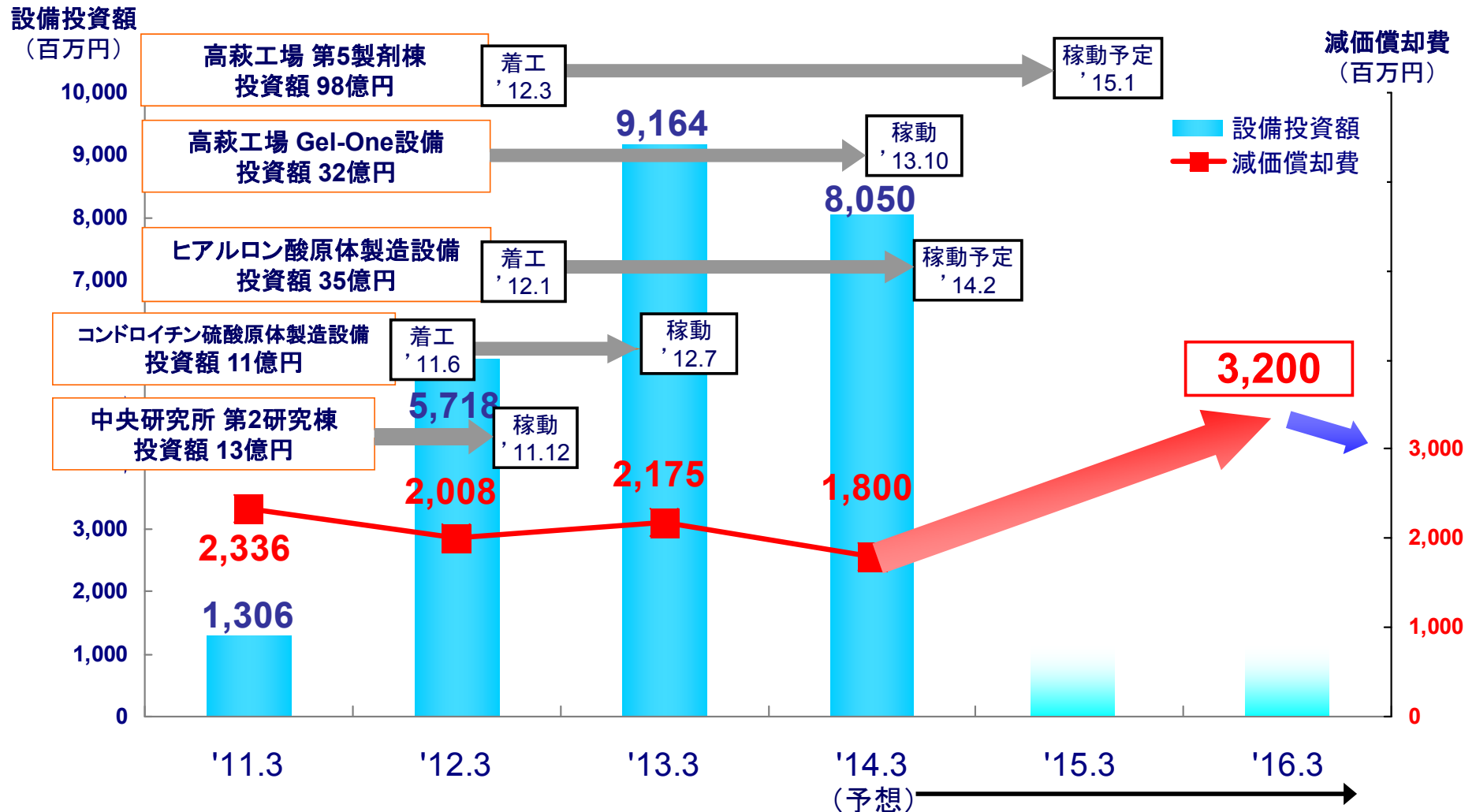
ACT for the future
Advance · **C**hallenge · **T**ransparency

10年ビジョン達成に
向けた**萌芽形成**

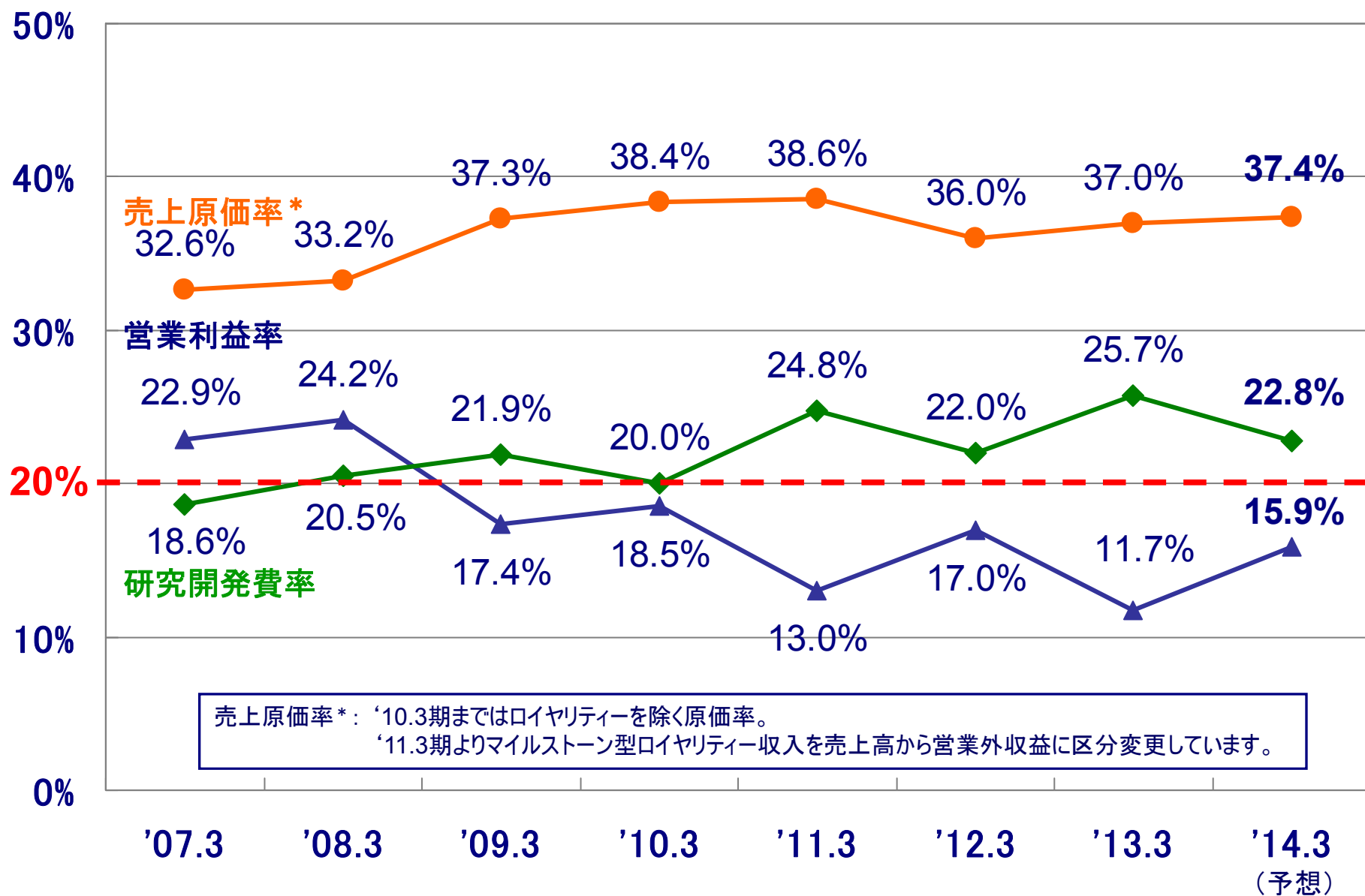


中期経営計画：設備投資・減価償却費の推移

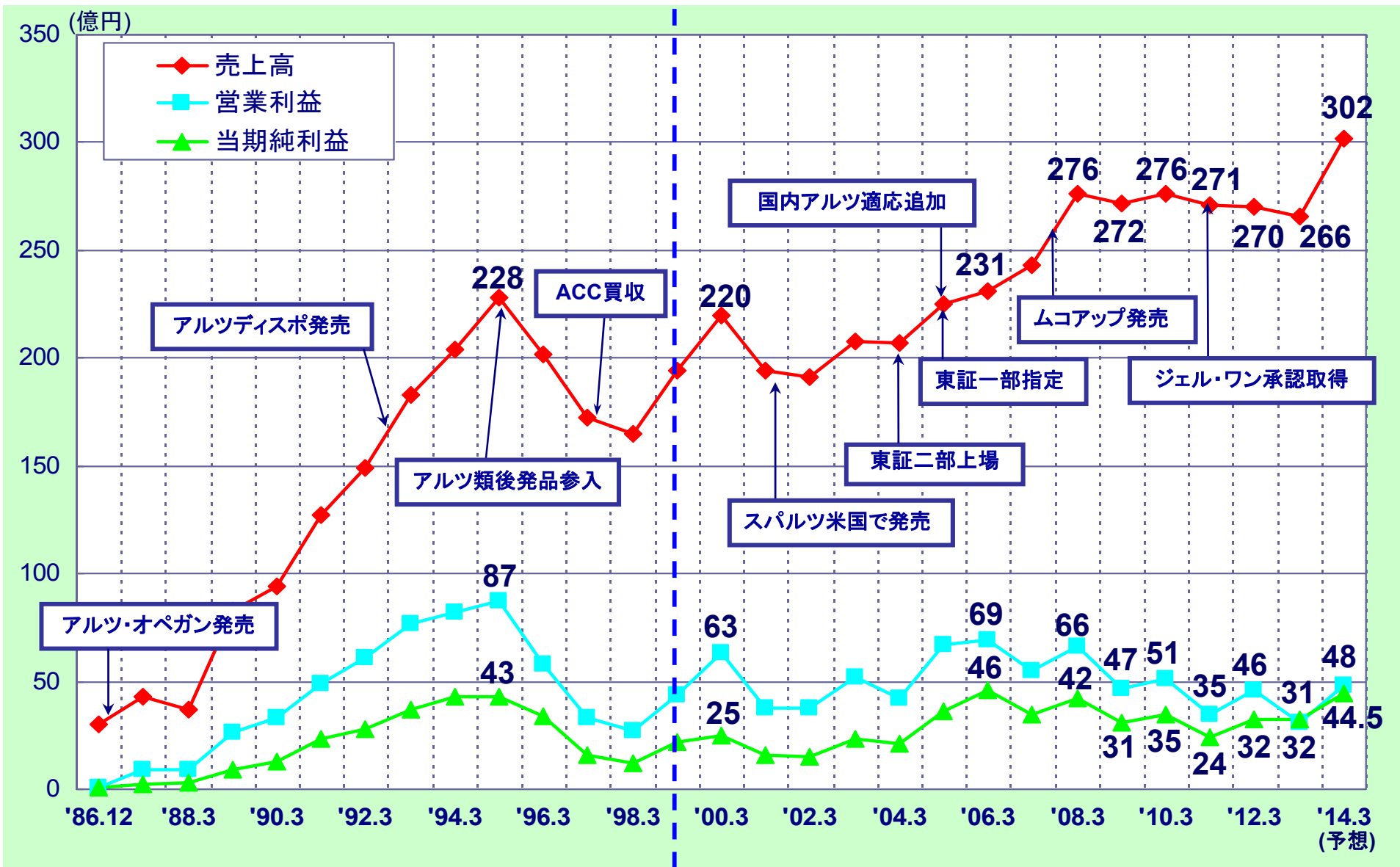
- 大型設備投資積極化により、減価償却費は増加
- 減価償却方法変更により、ピークを35億円から32億円に修正



売上原価率・販管費率の推移



業績の推移と主なトピックス

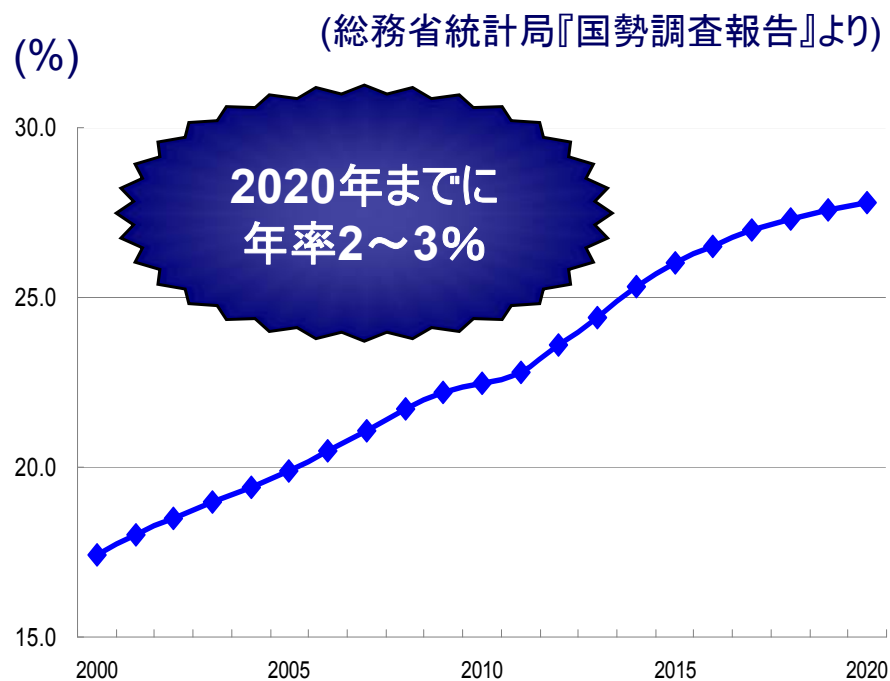


⇒ '99.3以降は連結決算数値

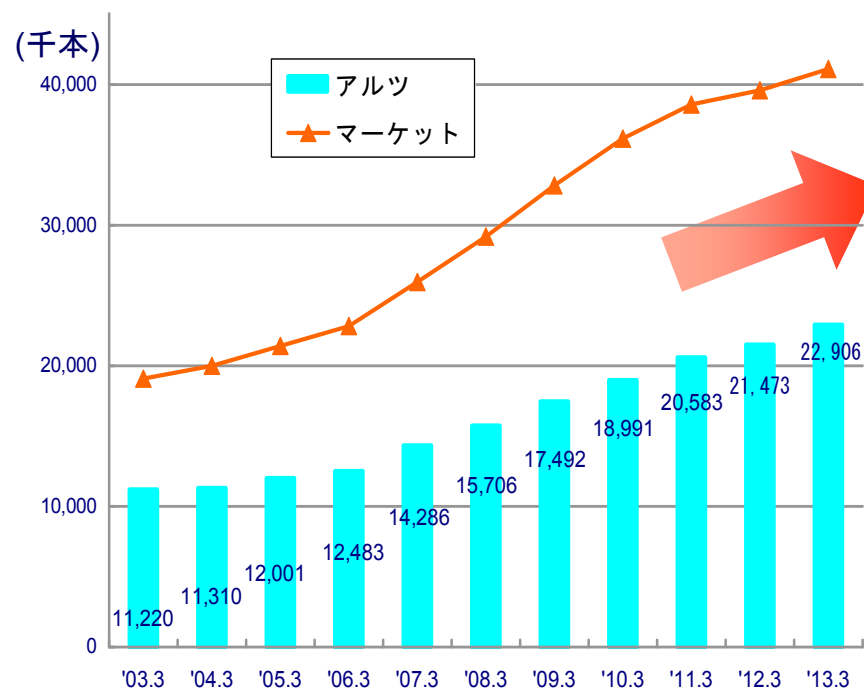
日本市場でのアルツの成長性

- 日本におけるヒアルロン酸製剤市場は高齢者人口の増加に伴って引き続き増加
- 変形性膝関節症の顕在患者は約800万人おり、潜在患者は約2,530万人（東京大学の調査による）

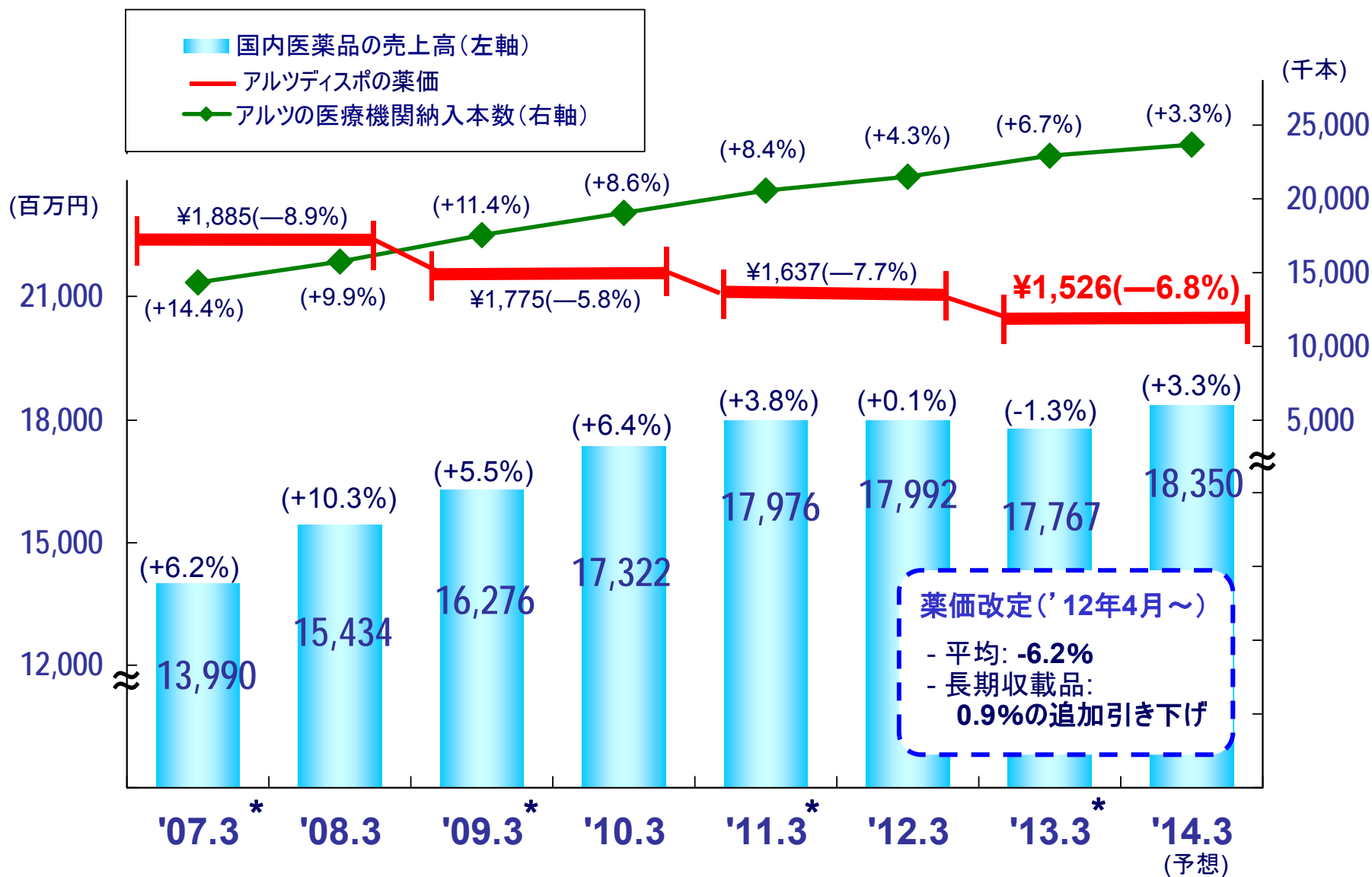
■ 高齢者人口比率の増加



■ アルツの医療機関納入本数の推移



薬価と国内医薬品売上高の推移



*薬価改定年

疾患啓発活動によるマーケット拡大施策

朝日新聞全国版朝刊などに
広告を掲載(9月:3回)

生活総合情報サイト

All About

その道のプロが、あなたをガイド。

に記事を掲載

中高年 動きすぐ

そのひざの痛みには、正しい治療法があります。

こんな誤解、していませんか?

誤解1 歳のせいだから、仕方ないですね?
年齢のせいだけでは、変形性ひざ関節症という病気が原因です。どんな病気でも、実行する薬に、薬効による早期治療・早期治療が大切です。

誤解2 自己流の対処で痛みが治ったので、平気ですね?
たとえ一時的に痛みが治っても、それが病気が治ったとは限りません。自己流の対処ではかえって病状を悪化させてしまう危険性もあります。

誤解3 時々痛くなる程度だし、まだ病院へ行かなくても大丈夫ですね?
「変形性ひざ関節症」は骨に骨が刺さる病気です。骨が刺さるほどではなくても、歩行時や長時間の歩行で痛みがひどくなる場合があります。適切な治療が大切です。

ひざ痛の改善には、病院を受診するのが近道です。 **変形性ひざ関節症**

お近くの病院を検索できます。
ひざ研 朝日 検索 www.hizaken.com

ひざ研 変形性ひざ関節症 変形性ひざ関節症 変形性ひざ関節症

2013年9月18日 朝日新聞朝刊

【膝の痛み・変形性ひざ関節症】自己対処でごまかさない! 変形性ひざ関節症の基礎知識

All About 健康・医療

ひざの痛みを解き明かす ひざ科学研究所

健康管理 症状・病状 治療・介護 病院検索 薬検索 家庭の医学 ガイド紹介

膝の痛み・変形性ひざ関節症/膝の痛み・変形性ひざ関節症の症状と治療法

自己対処でごまかさない! 変形性ひざ関節症の基礎知識

加齢や肥満、運動不足などが起こる膝の痛み。この関節痛はどのような仕組みになっているのでしょうか。加齢とともに増える「膝の痛み」の症状の一つである変形性ひざ関節症の症状とともに解説します。

執筆者: 中川 聡
監修: 科研医薬、生化学工業

第1回「こんな痛みにご用心!」でご紹介したように、膝の痛みで悩んでいる中高年は多くいます。その原因となる病気でもっとも多いのが変形性ひざ関節症です。この病気では膝の関節にどのような変化が起こっているのでしょうか。

膝の関節口は正しい走りや歩行のときに受ける衝撃を吸収し、しかも滑らかに曲げ伸ばしができるような仕組みがあります。なかでも、もっとも重要な役割を担っているのが骨と骨がぶつかる部分を選っている関節軟骨です。関節軟骨は厚さ3~4ミリの組織ですが、体重の数倍の衝撃や衝撃を吸収し、関節を動かすときの摩擦を減らす役割を担っています。

さらに、関節は関節包や滑膜という組織で覆われ、その中は関節液という液体で満たされています。関節液はヒアルロン酸が多く含まれるヌルヌルとした液体で、いわば自動車のエンジンの中の潤滑油のような役割を果たしています。

こうした関節軟骨や関節液の働きによって、膝がスムーズに動くとともに、運動したときに関節や骨が受ける衝撃をうまく和らげているのです(図1)。

図1 正常な関節

変形性ひざ関節症の関連記事
全6シリーズのうち2つを掲載

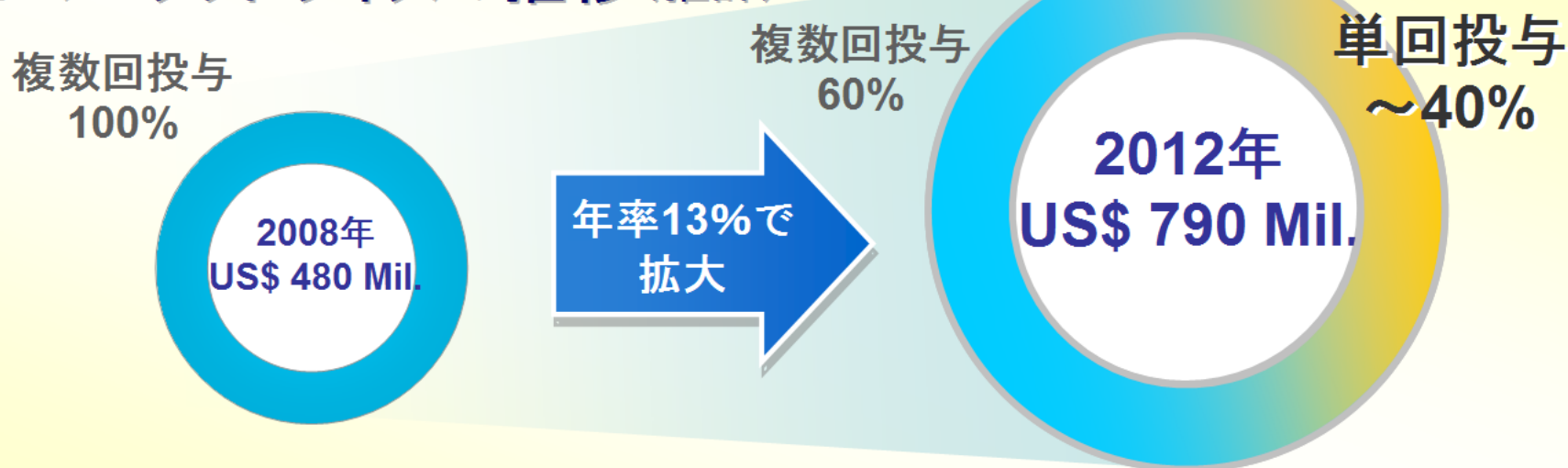
米国におけるヒアルロン酸製剤の市場状況

■ 変形性膝関節症の患者数(推計)



◆ 顕在患者のうち、ヒアルロン酸製剤の使用比率は1割弱
⇒大きな拡大余地が残されている

■ マーケットサイズの推移(推計)

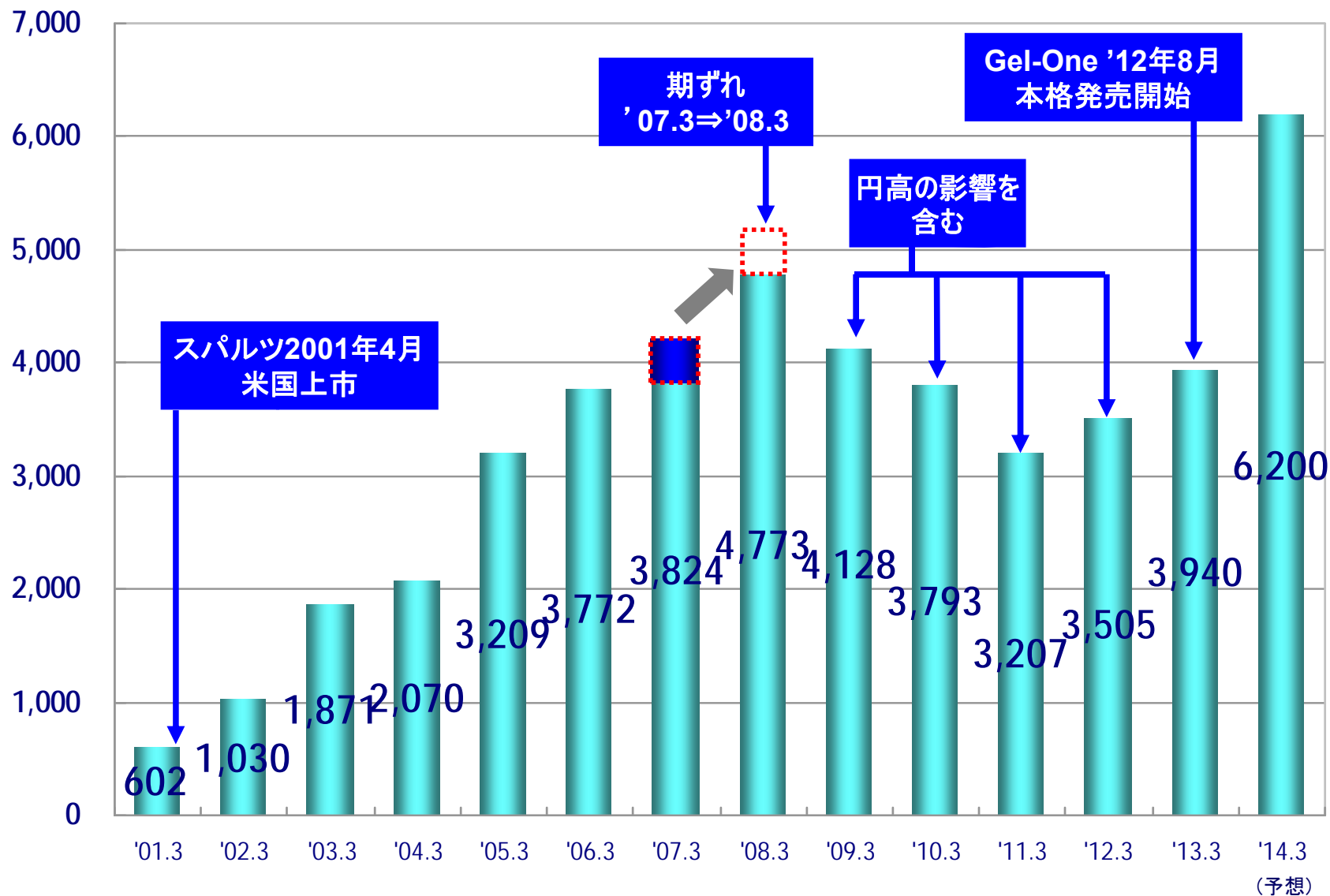


◆ 2009年の単回投与製品の発売によりマーケットの拡大が加速

* 数値は当社推計

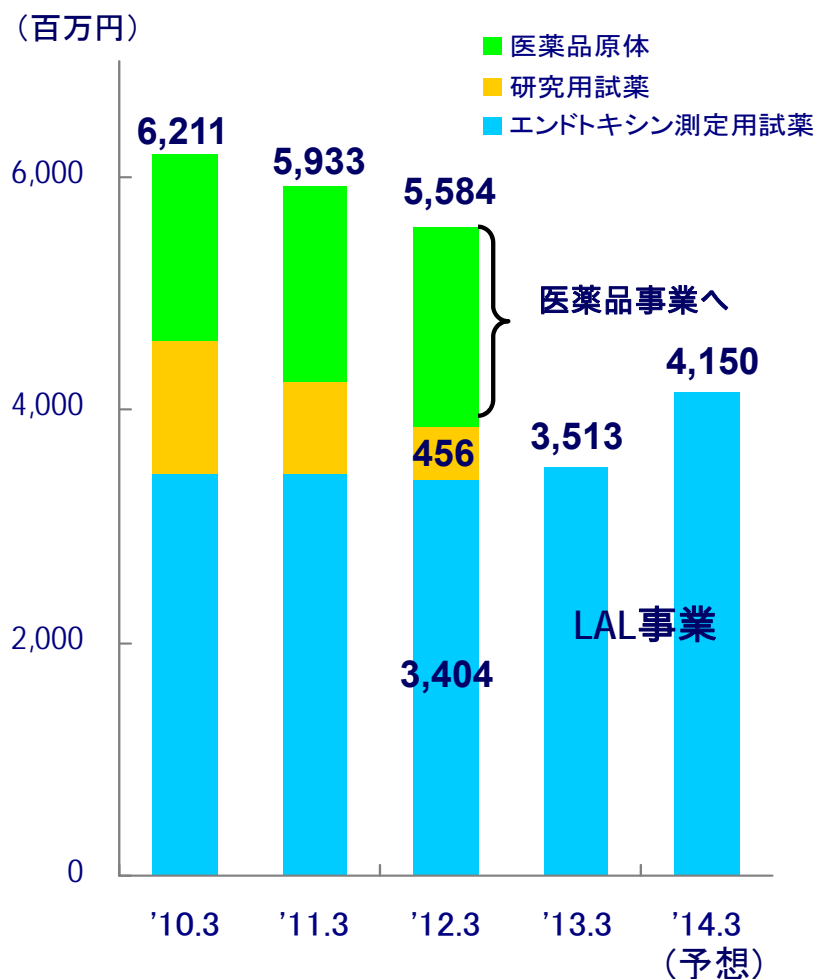
海外市場でのヒアルロン酸製剤の販売推移

(百万円)



LAL事業の販売状況(金額ベース)

LAL事業の売上推移



■'14.3期 第2Q実績 +17.0%(前年同期比)

国内:体外診断薬の販売終了により微減

毎外:エンドトキシン測定用試薬売上増と円安効果により増加

■'14.3期予想 +18.1%(前期比)

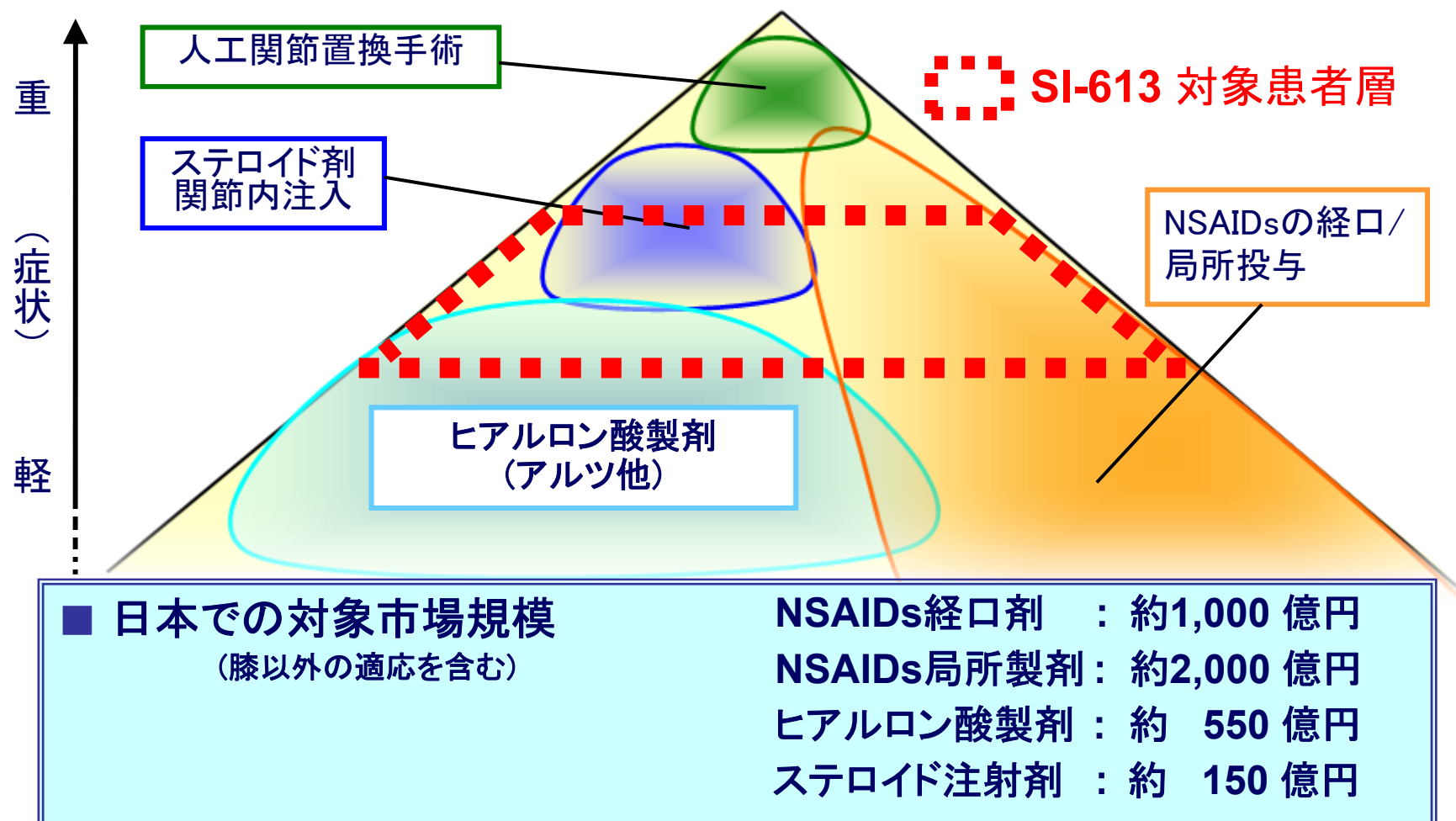
国内:体外診断薬の終売があるが、試薬・機器の増加により、前期並み

海外:エンドトキシン測定用試薬が円安効果もあり売上増加

(セグメント変更) 研究用試薬事業の廃止や生化学バイオビジネスの吸収合併により、2013年3月期からセグメントを変更しています。医薬品原体を医薬品事業に含め、エンドトキシン測定用試薬をLAL事業としています。

SI-613の対象患者

■ 強い痛みを持ちNSAIDsの経口・局所投与、またはステロイド剤の関節内注入などを処方されている患者層が対象



SI-615の概要

- CanFite社より導入した経口関節リウマチ剤
- 導入元が実施中の進捗等を考慮し、開発方針を再検討する

- 物質名: アデノシンA3レセプターアゴニスト
- 適応症: 関節リウマチ
- 用法: 経口剤
- 現在のステージ:

日本: P I

◆ 2009年5月:
単回投与試験終了

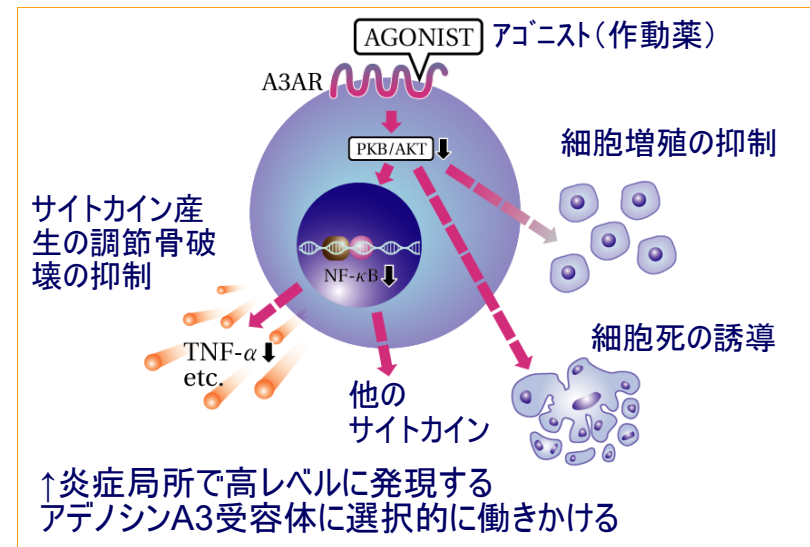
欧州: P II b

◆ CanFite社実施

⇒ 当社では、導入元のCanFite社が実施中の単剤でのP II bの進捗等を考慮し、今後の開発方針を再検討する

◆ 特徴:

- ・ CanFite BioPharma社からの導入テーマ
- ・ 炎症性局所で高レベルに発現するアデノシンA3受容体に選択的に働きかけ、炎症の発症に関与する細胞内情報伝達や炎症性サイトカインの産生を抑制する作用が考えられている



生化学工業の特徴

■ ユニークな3つの強みを通じて国内外の医療に貢献

糖質科学を専門分野とする研究開発型製薬企業

1. ■ 大手企業が参入し難いニッチな領域を手がけている
■ **60年以上**、この領域に焦点を合わせて研究開発を推進

ユニークなビジネスモデル

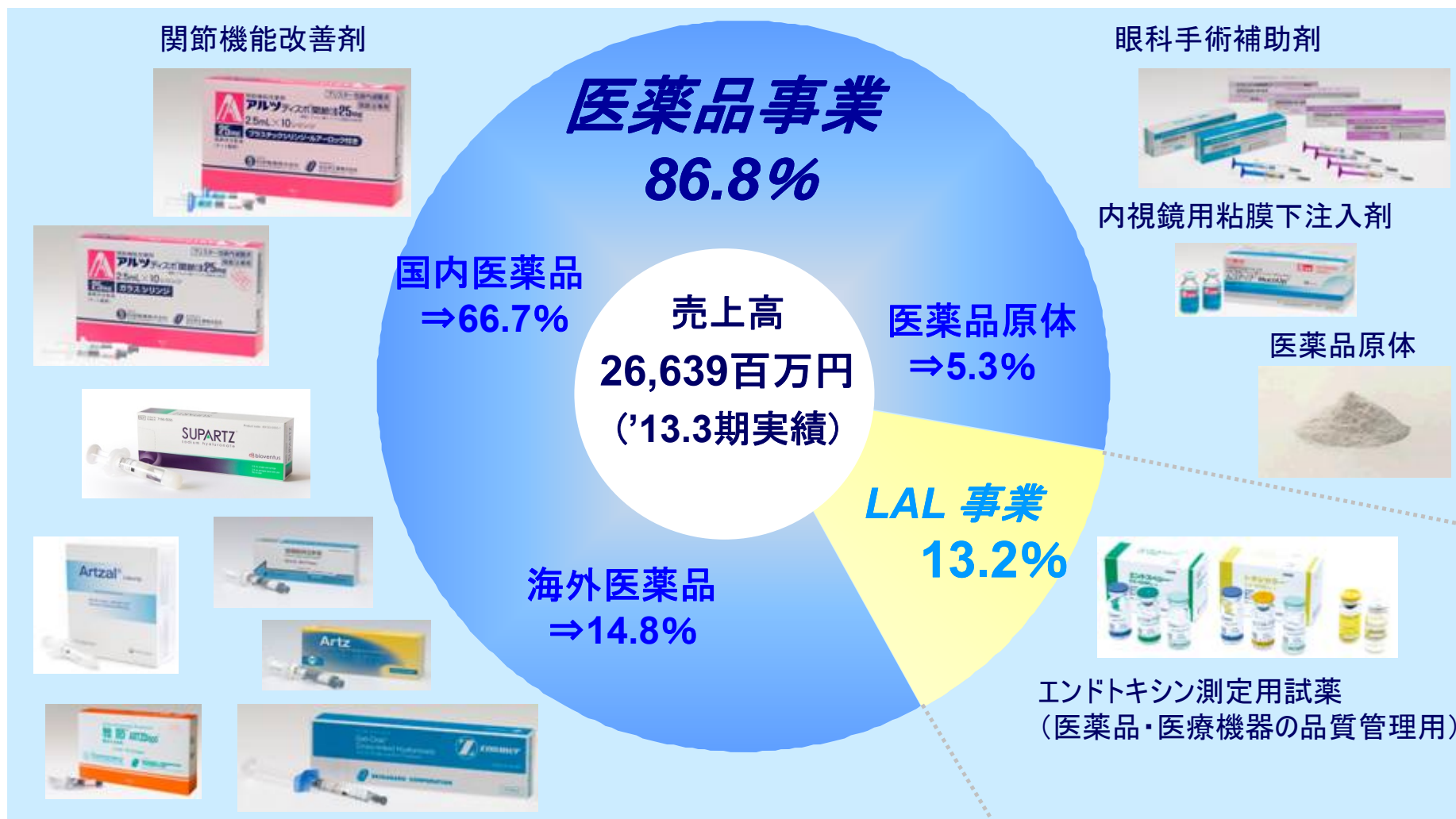
2. ■ 販売部門を持たず研究開発と生産に特化
■ 全従業員のうち、**3分の1**が研究開発要員
■ 売上高の **20%以上**を研究開発費に投入

製造面における抽出及び高純度精製の高い技術力

3. ■ 発売から25年以上経つ主力製品のアルツは大きな副作用なし
■ 国内外で累計**3億本以上**の使用実績

生化学工業の事業と製品

■ 売上高の85%以上を占める医薬品事業が柱



主力製品：ヒアルロン酸製剤

■ **アルツ** 変形性膝関節症における痛みの緩和（複数回投与製品）

- ◆ **世界初の**ヒアルロン酸を主成分とした関節機能改善剤
- ◆ **世界で最も**使用されている注射用ヒアルロン酸製剤
(18カ国で承認)

- ◆ 主要販社:
 科研製薬（日本）
 バイオベンタス(米国)
 クンミン ベーカー ノートン（中国）

プラスチック・ガラス容器の
併売で 医療ニーズに対応



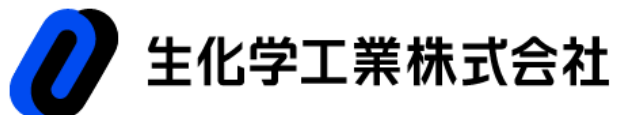
左上：ガラスシリンジ、右：プラスチックシリンジ

■ **Gel-One** 変形性膝関節症における痛みの緩和（単回投与製品）

- ◆ **高い粘性を持つ架橋ヒアルロン酸ゲル**
を主成分とした関節機能改善剤
- ◆ 2012年1月に米国で**販売開始**
- ◆ 販社: ジンマー（米国）



糖質科学で未来を創る



<http://www.ehiza.jp/>

■業績予想に関する留意点

当資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますので、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの将来に関する記述に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。